

# 根室地域（落石地区）マリンビジョン

## ～独自の自然環境・景観と共生した漁業と暮らしの再構築～

水産物の安定供給  
基盤・体制の確保

環境・生態系保全と  
グリーン社会の構築

安全安心な  
漁業地域づくり

漁村地域の  
総合的な振興

水産物の安定供給基盤・体制の確保

・持続的漁業生産体制の確立  
 ・養殖生産拠点の形成  
 ・高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築

・衛生管理体制の確立  
 ・陸上養殖事業の展開  
 ・落石産水産物のブランド形成

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

・沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり  
 ・漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進

・環境に配慮したまちづくりの推進  
 ・自然エネルギー活用による漁港漁村の省エネ化

安全安心な漁業地域づくり

・増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化  
 ・ハード・ソフトが一体となった避難体制の構築  
 ・災害時における水産物流通機能の確保

・地域一体となった総合的防災体制の確立  
 ・災害時における水産物の生産・供給体制の確立

漁村地域の総合的な振興

・海業振興による地域資源を活かした新産業の創出  
 ・地域振興を担う人づくり  
 ・多様な連携による地域振興

・海業振興による漁村地域の活性化  
 ・渚泊の推進による滞在型観光の実現  
 ・漁協施設を活用した落石産水産物の地産地消

■地域マリンビジョン協議会

【メンバー構成】

・漁業関係者

・農業関係者

・商工業関係者

・金融関係者

・義務教育学校

・郵便局

・信用金庫

・町内会等

・行政関係者

●基礎データ

地域人口：684人(287世帯) (R6年根室市統計)  
 漁業生産量：4,242t (R5値)  
 漁業生産額：2,358百万円 (R5値)  
 漁港：落石漁港(落石地区、浜松地区、昆布盛地区) (第3種)  
 根室港(根室地区、花咲港区) (重要港湾)

《令和7年3月改訂》

【位置図】

【落石漁港(昆布盛地区)】

【落石漁港(浜松地区)】

【落石漁港(落石地区)】

地域資源（特徴）

〈漁獲水産物の陸揚げ〉 〈落石ネイチャークルーズ〉 〈おちいし味まつり〉 〈サカイツツジ〉

【地域の特徴】

○独自の自然環境・景観・地形  
 ○水産資源とそれを支える水産基盤  
 ○多様な人材と人的ネットワーク

【その他】

・ユルリ島・モユルリ島  
 ・落石岬、浜松海岸、三里浜  
 ・日本で落石岬にしか咲かない花（サカイツツジ）

・長節湖、風連湖  
 ・酪農家集団によるグリーンツーリズムの取り組み  
 ・エゾ鹿、落石神社 等

・希少な野鳥の宝庫

生産量・生産金額の推移

年度	生産量 (t)	生産金額 (百万円)
平成26年	8,341	3,044
平成27年	7,403	2,789
平成28年	6,710	2,977
平成29年	4,030	2,115
平成30年	5,867	2,605
令和元年	5,371	2,605
令和2年	5,999	2,957
令和3年	5,072	2,350
令和4年	3,747	2,117
令和5年	4,242	2,358

地域人口・組合員数の推移

年度	地域人口 (人)	組合員数 (人)
令和2年	796	165
令和3年	771	158
令和4年	731	155
令和5年	708	154
令和6年	684	150

水産物の安定供給基盤・体制の確保

【持続的漁業生産体制の確立】 【養殖生産拠点の形成】  
【高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築】

落石地域マリンビジョン

水産物の安定供給基盤・体制の確保

現状

- ・ 漁業が基幹産業
- ・ 衛生管理施設（屋根付き岸壁、清浄海水導入施設）が整備済
- ・ 落石衛生管理マニュアル整備済
- ・ 漁業者の減少、少子高齢化が進行
- ・ 天然資源依存型の漁業に特化されている
- ・ 主要魚種資源の減少が著しく、漁家経営の先行きが不透明
- ・ 根室市と東海大学との産学官連携によるヤナギダコ資源増大研究により、国内初となる種苗放流試験を実施
- ・ 全国的に落石産ブランドの知名度が低く、浸透していない
- ・ 令和4年に落石漁協内部に製品開発・販売部を新設

課題

- ・ 食の安全・安心、消費者ニーズに対応した落石漁港・市場を中心とした衛生管理体制の確立
- ・ 落石漁港（落石地区・浜松地区）における増養殖機能の整備
- ・ 水産物の高付加価値化による魚価の向上
- ・ 漁業経営の安定化
- ・ 落石産ブランドの浸透、認知度向上
- ・ 落石産水産物を使用した商品の開発、生産体制の強化

屋根付き岸壁



【概要】  
・ 平成25年に供用開始

清浄海水導入施設

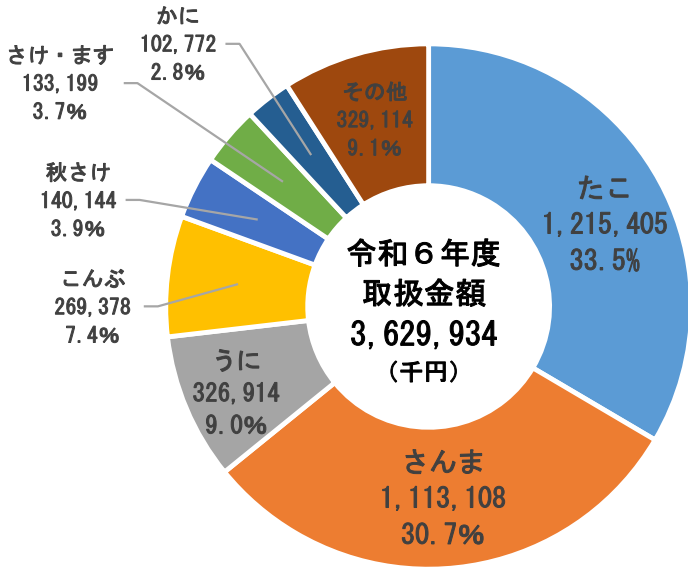


【概要】  
・ 平成26年に供用開始

ヤナギダコの放流試験

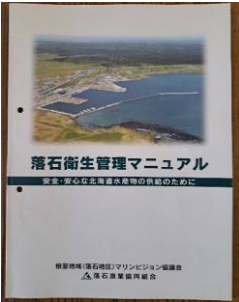


【概要】  
・ 平成26年より実施  
・ 東海大学海洋学部との共同開発による、「ヤナギダコの産卵・ふ化技術」を活用し、市場内において陸上水槽産卵技術を活用した稚ダコをカルベース試験礁に放流している



推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
衛生管理体制の確立	主体：漁協、根室市、衛生管理推進協議会、関連団体、買受業者等	短・中期・長期：衛生管理推進組織の設置、市場利用者による落石衛生管理マニュアル並びに根室市衛生管理マニュアルの着実な実践	・「漁港における衛生管理基準（レベル3）」への対応
高度衛生管理に向けた落石漁港整備の推進	主体：国、漁協、根室市	短・中・長期：衛生管理流通拠点漁港の形成、外来漁船誘致施設の整備（周辺漁港との連携）	—
つくり育てる漁業の推進	主体：漁協、根室市、国、道	短期：ウニの陸上養殖・海面養殖、ホッキガイ・サケの増養殖、タコ産卵礁の整備、昆布漁場の維持・保全を図るため雑海藻駆除等による漁場の造成、新たなコンブ増殖技術の試験継続・効果調査、根室市と東海大学との産学官連携によるヤナギダコの資源増大へ向けた相互研究並びに稚ダコ放流試験の実施	・ ウニ出荷額 50t/年 ・ ウニ生産額 2億5千万円/年
		中期：落石漁港における増養殖機能の強化、陸上養殖施設の建設	
		長期：養殖に適した静穏域の確保	
落石産水産物のブランド形成	主体：漁協、根室市	短期：落石産水産物を使用した水産加工品の生産体制の構築、道内外催事での積極的な販売促進活動	・ 製品開発・販売部における落石産水産物の売上 6,000万円/年（現状の60%アップ）
		中期：様々な情報発信媒体を効果的・有効的に組み合わせた情報発信、新規取引先の開拓	
		長期：消費者ニーズに応じた商品開発、ブランド品等の販売	



落石衛生管理マニュアル



ウニの陸上養殖



令和7年2月に新設した加工処理施設



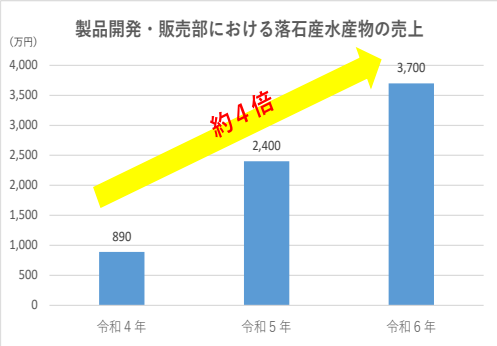
落石産ブランド「しお風」



道内イベントでの販売促進活動



セブンイレブンと共同開発したおにぎり「たこめし」



環境・生態系保全とグリーン社会の構築

【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】  
【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】

落石地域マリンビジョン

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・落石岬やユルリ・モユルリ島などの豊かな自然環境がある</li><li>・ユルリ・モユルリ島は北海道の天然記念物や自然環境保全地域に指定されている。</li><li>・海岸や漁港にゴミが散乱している</li><li>・磯焼けなどによる漁場環境の悪化</li><li>・污水处理施設の未整備</li><li>・燃油、電気料金の高騰</li><li>・コンブ乾燥機利用時に大量の燃料が使用され、二酸化炭素の排出が多くなっている</li></ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境に配慮したまちづくりと環境改善への取組の推進</li><li>・藻場の保全</li><li>・排水路整備による海域の水質改善</li><li>・環境に応じた風力発電・波力発電等の自然エネルギーの活用検討</li><li>・コンブ乾燥工程の協業化等による漁業活動のエコ化</li><li>・ユルリ・モユルリ島の環境保全</li></ul>

ユルリ・モユルリ島

【概要】

・根室半島・花咲岬の7.5km沖に位置する無人島。

海岸清掃状況

漁港施設別の電力の使用による二酸化炭素排出量

【概要】

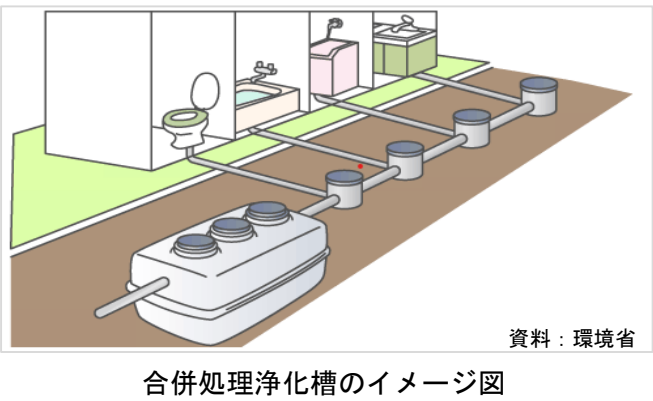
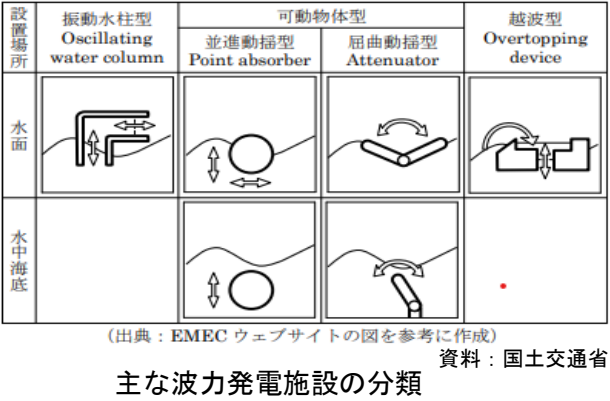
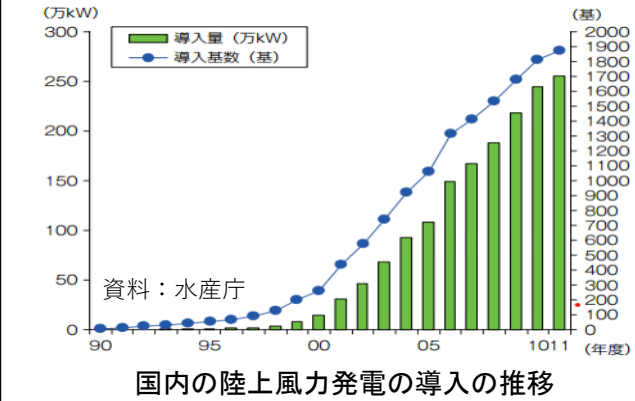
・製氷施設、冷凍・冷蔵施設、荷捌き所からのCO2排出量が多い

漁港施設別の燃料の使用による二酸化炭素排出量

・資料：漁港のエコ化推進調査（水産庁）

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
植樹・清掃活動	主体：漁協、町内会、期成会、愛護会、根室市	短期：海岸・漁港清掃の実施、海底清掃・岩盤清掃をはじめとした藻場造成の実施、植樹事業の実施	・海岸・漁港清掃実施回数 3回/年 ・藻場造成回数 30回/年
		中・長期：取組の継続	
污水处理施設の整備	主体：漁協、根室市、国	短期：根室市污水处理施設整備構想で示された個別処理の整備手法に基づき、合併浄化槽の設置を推進	・合併浄化槽整備率 100%
		中・長期：取組の継続	
漁港漁村の省エネ化の推進	主体：漁業者、漁協、根室市	短期：関係者の省エネ意識の向上と具体的な取組の推進、コンブ乾燥機の更新による省エネ化の推進	・電力消費量 10%削減
		中期：小型風力発電の立地可能性調査（風況等）の実施、電力需要量と供給可能量の検討、施設整備に向けた財源の確保に関する検討	
		長期：小型風力発電の導入推進、落石周辺海域における波力発電の導入可能性についての検討、コンブ共同乾燥施設の整備	
ユルリ島・モユルリ島清掃	主体：漁協、義務教育学校、根室・落石地区と幻の島ユルリ島を考える会	短期：ユルリ・モユルリ島の清掃活動	・ユルリ・モユルリ島清掃実施回数 1回/年
		中・長期：取組の継続	



## 落石地域マリンビジョン

# 課題

- ・大地震や津波をはじめとする自然災害への対応
- ・高潮被害の防止
- ・BCPの実効性確保
- ・災害時における水産物の生産・供給機能の確保
- ・道路や用地の液状化対策・冠水防止対策

- ・死者数 約100,000人
- ・被害額 約17兆円
- ・全壊棟数 約84,000棟
- ・最大沿岸津波高 22.0m

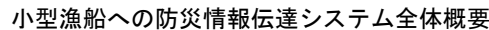
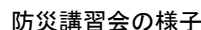
Figure 1 consists of two maps of the Kuroshio Current area, showing wave height distribution. The left map is for the period 1998-2002, and the right map is for 2003-2007. Both maps use a color scale to represent wave height (m) from 0.01 to 20.0. The maps show the Kuroshio Current flowing northward along the coast of Japan, with wave heights generally increasing towards the coast and in the current's core.

Legend for both maps:

- 20.0 - (Dark Blue)
- 10.0 - 20.0 (Red)
- 5.0 - 10.0 (Orange)
- 2.0 - 5.0 (Yellow)
- 1.0 - 2.0 (Green)
- 0.01 - 1.0 (Cyan)

- ・ (左) 日本海溝モデルの想定沿岸津波高(満潮時)
- ・ (右) 千島海溝モデルの想定沿岸津波高(満潮時)

推 進 方 策			
取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
総合的防災体制の確立	主体：漁協、根室市、地域住民等	短期：ハザードマップの整備（精度向上）、避難訓練の実施、防災講習会の開催	・ 避難訓練実施回数 2回／年 ・ 防災講習会実施回数 1回／年
		中・長期：大規模災害時における事務所機能の移転を踏まえた初動体制の整備、防災情報伝達システムの構築	
総合的防災基盤施設の整備	主体：漁協、根室市、道、国	短期：集落ごとの避難路・避難場所の整備、小型漁船に対する情報伝達施設の整備	・ 漁業活動の早期再開を目指す。
		中・長期：ハード整備（道路・用地の液状化対策、濁流防止柵）の推進、津波対策における防波堤の整備	
BCP計画に基づく訓練の実施	主体：漁協、根室市、落石漁港BCP協議会	短・中・長期：BCPの訓練、継続的改善（PDCAの実施）	・ 漁業活動の早期再開を目指す。
避難ルールの見直し・運用	主体：漁協、根室市、地域住民	短期：避難ルールの見直し	・ 死者ゼロを目指す
		中・長期：避難ルールに基づく訓練	



# 港内

## 滞在時の漁船避難ルール (落石地区・落石港・浜松港・昆布盛港など)

＜陸上滞在時の留意点＞

1. 船内避難は、小波でも浪が破れるように、沖に出ない。
2. 津波は沖に出ると、津波の避難場所の水深まで到達する前に沖に上りを完了する。
3. 出海の時点で、津波到達までの余裕時間がない場合は沖に出しない。
4. 津波は正面から襲える。
5. 避難場所まで沖出しし後は、すぐに安全な場所へ避難まで沖出しするうに心掛ける。
6. 沖出しできない場合は、港での滞り時間や天候などを見て、最終的には自分で判断し行動する。
7. 津波警報継続中、港の状態を確認し、帰港する。

種類	発表される 津波の高さ	動力船		船外機動 取るべき 行動
		避難海域	港での 残り時間	
巨大	10m超	—	沖出ししない	沖出ししない  ※すみやかに 高台へ
大津波 警報	10m  5m	40m以深 (避港から4km)	20分以上	
津波 警報	高い または3m	30cm以深 (避港から3km)	20分以上	
津波 注意報	1m	30cm以深 (避港から3km)	自己判断	

避難所  
または安全な高台

水深 30m      水深 40m

避港から3km      避港から4km

動力船でも大津波警報  
巨大または10m超または  
10mは沖出ししない

さらに沖へ

**❌**

船外機動は沖出ししない  
※すみやかに高台へ

津波注意報1m  
津波警報継続中または3m

大津波警報5m

動力船

～危機を漁船避難をけるために、漁船のみんなでも決めた大切なルールです～

# 海上

## 操業時の漁船避難ルール

(落石地区・落石港・浜石港・昆布盛港など)

### ① 海上操業時の留意点

- 海上操業時は、避難先までの距離や漁船の操業状況、漁獲量などによって避難開始のタイミングで行なわれる。
- 避難の際は、漁船の位置や操業の内容も所定に記入し、自己判断で避難開始または待避・上陸へ避難する。
- 避難の際は、沖合漁船の場合は避難区域へ、近海漁船の場合は待避中に操業中の漁船へ注意を促す。
- ただし、沖合漁船は、漁船の避難開始から1時間以内の停留時間となるため、避難を待たずに上陸すること。
- 近海漁船は、避難している漁船の漁獲が完了し、アンカーを上げ、支の着、漁具、漁具などへ上陸し、漁具中へ避難すること。
- 近海漁船は、漁上と農上とを共に合弁し合弁の責任を負い、避難中に農上に集まって合弁へ避難する。
- 近海漁船の避難に当たっては、漁上がいかに上陸可能な場合があることにも注意すること。

種類	発表される 津波の高さ	動力船		船外機船	
		取るべき 行動	避難先	取るべき 行動	避難先
大津波 警報	巨大 1.0m以上  1.0m  5m	1. 上陸可能な津波力 2. 上陸可能な場合 3. 上陸へ合弁へ 4. 2時間以内に漁上 5. 漁上が完了する 6. 農上を待たずに上陸 7. 農上を待たずに上陸 8. 農上を待たずに上陸 (自己判断)	きらに沖合 (500m)沖合 (500m)沖合 (400m)沖合 (400m)沖合 (300m)沖合 (300m)沖合 (300m)沖合 (300m)沖合	アンカーを上げて 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ 待避中に漁上へ	1. 漁上 2. 近隣の陸上 (倉庫や伊勢) 3. 上陸後は 安全な高台へ
津波 警報	高い または3m	1. 上陸可能な津波力 2. 上陸可能な場合 3. 上陸へ合弁へ (自己判断)	沖合待機する (自己判断)	沖合待機する (自己判断)	漁上を待たずに 上陸可能な場合 に上陸する (自己判断)
津波 注意報	1m	1. 上陸可能な津波力 2. 上陸可能な場合 3. 上陸へ合弁へ (自己判断)	沖合待機する (自己判断)	沖合待機する (自己判断)	漁上を待たずに 上陸可能な場合 に上陸する (自己判断)

避難先  
安全な高台

30m

水深が30m

40m

水深が40m

50m

水深が50m

50m以上へ

近隣の陸上・漁船のいる場所、  
関係ない場合は上陸不要

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

上陸後は  
たちちに  
高台へ

# 漁村地域の総合的な振興

【海業振興による地域資源を活かした新産業の創出】  
【地域振興を担う人づくり】  
【多様な連携による地域振興】

## 落石地域マリンビジョン

漁村地域の総合的な振興

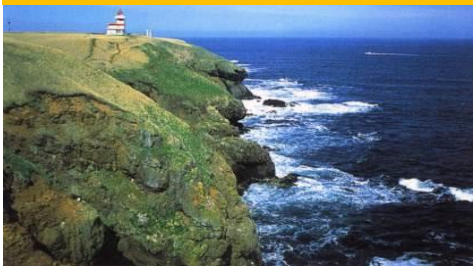
現状

- ・ユルリ・モユルリ島などの天然記念物をはじめとした観光資源が豊富
- ・全国でも有数の野鳥の生息地
- ・ネイチャークルーズやフットパスなどの観光資源を活かした取組を実施
- ・優れた資源・取組間のネットワーク化が未形成
- ・通過型観光地
- ・担い手の高齢化、観光ガイド不足
- ・落石地区における小中学生の減少
- ・漁協施設（加工処理施設）の新設
- ・資源量減少による漁業者所得の減少

課題

- ・観光資源の有効活用
- ・新たな顧客の獲得
- ・地域の魅力発信
- ・通過型観光から滞在型観光への改善
- ・多様な連携の推進
- ・取組を担う人材の確保と育成
- ・漁獲量・金額の変動に対応する就業所得機会の創出
- ・落石産水産物の地産地消

独自の自然環境・景観



- 【概要】
- ・落石岬（海岸線）
  - ・浜松海岸、三里浜、長節湖
  - ・ユルリ・モユルリ島
  - ・国内で落石だけに自生するサカイツツジ（天然記念物）
  - ・エトピリカをはじめ、希少な野鳥の宝庫

落石ネイチャークルーズ



- 【概要】
- ・平成22年5月より運航開始
  - ・漁業者の自営船をクルーズ船として活用
  - ・漁業者自らがガイドとなり運航
  - ・エトピリカなどの希少な野鳥やラッコが近くで見ることができる。
  - ・外国人観光客も年々増加傾向

おちいし味まつり



- 【概要】
- ・平成19年より毎年5～6月頃に開催
  - ・地域住民が中心となり企画・運営を行っている。
  - ・地域水産物をはじめとした落石特産品が味わえるイベント
  - ・来場者数は年々増加傾向であり、市外からの観光客も増えている。

## 推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
既存の取組の拡充・強化	主体：漁協、根室市、ネイチャークルーズ協議会、漁業者	短期：ネイチャークルーズにおける新コースの開発、おちいし味まつりの内容強化、新たな観光コンテンツの模索・開拓、旅行代理店等へのネイチャークルーズの売り込み強化	・イベントによる落石地区への入込観光客数 9,000人/年 (現状の50%アップ)
		中・長期：新たなコースを加えたネイチャークルーズの実施、フットパスの通年化	
新たな都市漁村交流メニューの開発	主体：漁協、根室市、地域住民	短期：新たな漁業体験メニューの構築、地域資源を活かした観光体験プログラムの検討	・観光体験プログラム数 2個追加
		中・長期：地域資源を活用した総合的な観光体験プログラムの実践	
多様な連携による戦略的なPRと滞在拠点の形成	主体：漁協、根室市、地域住民	短期：観光業者との連携強化、メディアやSNS等の積極的な活用	・SNS投稿数 60回/年 ・宿泊受入人数 100人/年 (現状のネイチャークルーズ受入人数の10%程度を想定)
		中期：漁家民泊の受入体制構築、既存施設等を活用した滞在拠点の形成、定期的な地域懇談会の実施	
		長期：廃漁船等を活用した宿泊施設の検討、漁業協同組合・漁業者・民間企業等との連携による海業の推進	
次世代を担う小中高生を核とした担い手確保対策	主体：漁協、根室市、漁業者、教育機関	短期：出前講座・漁業体験の実施、他の漁村地域との連携による授業の実施	・出前講座実施回数 2回/年 ・漁業体験実施回数 2回/年
		中期：取組の継続、漁村留学制度の構築	
		長期：取組の継続、漁村留学制度の運用	
漁協施設を活用した地域水産物の販売	主体：漁協、根室市	短期：直販店舗建設計画の立案、落石産水産物・加工品を活用した物産イベントの開催	・落石産水産物の売上 6,000万円/年 (現状の60%アップ)
		中期：直販店舗の建設	
		長期：直販店舗による地域水産物の販売	



落石ネイチャークルーズ  
(出港時の様子)



落石フットパス



地元小学生への漁業体験  
(三里浜でのほっき掘り体験)



落石漁協公式Instagram



落石漁協青年部による出前講座



落石産タコを使用した商品



廃漁船の宿泊施設としての再利用